

## 平成28年度 第2回豊田市スポーツ推進審議会 会議録

【日時】 平成28年10月5日(水) 午後3時00分～5時00分

【場所】 豊田市役所 教育委員会議室

【出席者】 (委員) 高橋 義雄 (筑波大学大学院人間総合科学研究科准教授)《会長》  
松尾 貴光 (中京大学 執行役員企画局長)《副会長》  
熊谷 謙蔵 (豊田市区長会)  
梅村 正幸 ((公財) 豊田市体育協会 事務局長)  
兵藤 おさみ (豊田市スポーツ推進委員協議会 副会長)  
藪押 光市 (豊田商工会議所 事務局長)  
本多 重之 ((一社) 豊田青年会議所 LOM 政策協議会議長)  
徳田 康 ((公財) 愛知県サッカー協会 専務理事)  
徳増 年彦 ((株) 豊田スタジアム 取締役事業推進部部長)  
廣瀬 佳司 (トヨタ自動車(株) 人事部 トヨタスポーツ強化グループ主幹)  
町田 淳 ((株) 名古屋グランパスエイト マーケティング部部長)  
里園 友紀 (エフエムとよた(株) ラジオラヴィートパーソナリティ)  
北垣 啓子 (公募委員)

【欠席者】 (委員) 桑田 厚司 (愛知県ラグビーフットボール協会 理事長)

中井 久美 (豊田まちづくり(株) まちづくり推進部次長)

【事務局】 福嶋 兼光 (教育長) 宮川 龍也 (教育行政部長)  
大谷 哲也 (教育行政部副部長) 前田 雄治 (経営戦略室政策監)  
田中 茂樹 (経営戦略室政策監) 西脇 委千弘 (経営戦略室副参事)  
杉山 寿美雄 (スポーツ課長) 後藤 直樹 (スポーツ課副課長)  
太田 信人 (スポーツ課担当長) 小石 拓也 (スポーツ課主事)  
山内 康資 (商業観光課担当長)

【傍聴人】 0人

【次第】 1 会長あいさつ  
2 委嘱状交付  
3 新任委員自己紹介  
4 教育委員会あいさつ  
5 議題  
(1) 副会長の互選について  
(2) 前回の審議会までの振り返り等について  
(3) 豊田市スポーツコミッションの組織体制について  
(4) 豊田市スポーツコミッションの活動内容について  
6 その他

## ■会長あいさつ

第2回豊田市スポーツ推進審議会、どうぞよろしくお願い致します。

スポーツに関連しての話になりますが、今年の8月、リオデジャネイロでオリンピック・パラリンピックが行われ、急激なスポーツ界の変化とともに様々なところから私に声がかかるようになりました。8月にリオデジャネイロに10日間ほど滞在し、そこで目にしたのは、我々の持っているオリンピックのイメージとは全く違うものでした。大きな違いは、それほど派手に、豪華にやらなくても良いという点で、東京都のやり方はあまりにもお金がかかるとリオデジャネイロでの経験から感じました。また、ロクテ選手が夜、選手村を抜け出して酔っ払い、ガソリンスタンドで物を壊した際に「強盗にあった」と虚偽の通報した、という事件がありました。実は選手たちは試合が終わると選手村を抜け出し、街へ遊びに出るということが今回の視察でよくわかりました。真面目な日本人だけが選手村に残っている、といった状況だったと、日本の選手団に入っていた筑波大学の先生から聞いています。東京は世界一安全な都市のひとつであるため、東京オリンピックでは選手たちの多くが、街へ出ていくだろうということが予想されます。つまり、リオデジャネイロオリンピック期間中に選手たちと出会いながら、街中で様々なことができるだろうなということを感じました。

その後、シカゴ、デトロイト、ワルシャワ、パリ、平昌、5都市を2か月の間に訪れました。シカゴ、デトロイトを訪れた際に、アメリカの大学スポーツ施設と運営を見てきました。ミシガン州立大学では7万5千人収容のアメリカンフットボール場があり、大学の年間スポーツ関連収入が100億円を超えており、Jリーグで最も大きいクラブである浦和レッズの約60億円という収入よりも大きいという状況です。大学スポーツがいかにビジネスになるかということをもNCAA（全米大学体育協会）の仕組みを学ぶとともに視察をして参りました。この視察の背景にはスポーツ庁からの話があり、大学スポーツを産業化するということが、日本の喫緊の命題になっています。各大学のスポーツ施設を単なる体育施設ではなく、観客を呼び、興行ができる施設に変えていこうという新たな動きがあります。

日本の大学と違い、ヨーロッパではIOC（国際オリンピック委員会）やFIFA（国際サッカー連盟）、UEFA（欧州サッカー連盟）などがサポートする大学院などがあり、各学校はスポーツビジネスのことを教える専門職業人大学院です。パリには筑波大学とUEFAがサポートするMESGOという大学院との提携のために行ってきました。

日本では、研究者となるためにスポーツマネジメントを学ぶので、結局、現場に出たときに役に立たない場合が多くあります。アメリカでは大学スポーツがビジネスになっているため、即戦力が育ちます。ヨーロッパでは、大学スポーツがビジネスにはなっていませんが、競技団体と連動して、専門家を育てています。日本にはそのような仕組みを作らなければならない現状があり、スポーツの現場で働く人材をどのように育てるかということに関して、日本は変わろうとしているのだなと思いました。

平昌では日中韓スポーツ大臣会合に出席しました。2018年の平昌冬季オリンピック、2022年の北京冬季オリンピックの開催が予定され、2026年には札幌が冬季オリンピックの開催地として立候補しようとしています。2017冬季アジア札幌大会が決まっているため、冬季オリンピックの札幌開催は難しいと思われませんが、IOCは、スポーツを通じた東アジアの平和共存について積極的に取り組んでいます。会合にはバッハIOC会長も出席し、日中韓で連携を行うよう促すと同時に、今回のような会議を多く開催しようと言いました。今後、日中韓のイベント

が増えてくるのではないかと感じております。

海外に行った際に感じたことをまとめてお話させていただきましたが、ラグビーワールドカップやアジア大会が開催されたときに、世界がどう動いているのかということを感じつつ、大会を運営することが非常に大事です。これは開催地に本社を置く企業やスポンサーにとっても大切なことであり、また、開催地の住民の暮らしにいかにより良い影響を与えることができるのが重要です。皆で目的をどこに置くのかを議論しなければいけない時代になったのではないかと思います。

私も「いつの間に」と思うほどの間にアジア大会の開催が決まっていましたが、開催まで10年あるので、議論をどんどん進め、豊田市としてもこのスポーツ推進審議会を中心に積極的に意見を交わすことができればと思います。

### ■新任委員あいさつ

私は1981年から体育協会の専属職員として勤め、35年間スポーツ振興に携わって参りました。微力ではございますが、このスポーツ推進審議会に役立っていきたく思っております。テーマであるスポーツコミッションについて、前もって資料を拝見させていただき、体育協会の位置づけが非常に重要であると思っております。よろしくお願い致します。

### ■教育長あいさつ

今日は第2回目のスポーツ推進審議会を開催させていただきました。大変お忙しい中、また、台風が接近している中にご参加いただき、ありがとうございます。先ほど、会長のほうからリオデジャネイロオリンピックのことも含めて、世界の情勢についてお話いただき、私にとっては目から鱗が落ちるようなお話でした。5月に学校教育の関係でデトロイトへ行き、その際に試合は開催していませんでしたが、ミシガン州立大学を訪問したため、会長のお話を聞いて、もっと世界に目を向けなければいけないなと思いました。

オリンピックは大多数の方がテレビで観戦していたと思いますが、日本も健闘し、とりわけ、豊田市出身の羽根田卓也選手の活躍は申し上げるまでもありません。10/2(日)には羽根田選手の祝勝会がホテルトヨタキャッスルで行われました。彼は北京オリンピックにも出場し、予選14位、ロンドンオリンピックでは7位入賞と輝かしい成績を上げ、今回のリオデジャネイロオリンピックではメダルを獲得しました。オリンピックに出場すること自体、入賞すること自体が素晴らしいことではありますが、どうしてもメダルに注目が集まるため、今回のような祝勝会は初めてのことです。会には300名近くの方が出席し、お祝いすると同時に、4年後の東京オリンピックに向けての決意表明がありました。ぜひ、皆で彼を支えていきたいと思っています。

国内にいても改めてスポーツの与える影響の大きさを感じるころがあります。スポーツ推進審議会でも様々なことについてご議論いただいておりますが、3年後のラグビーワールドカップ、4年後の東京オリンピック・パラリンピック、その先のアジア大会等がありますので、ぜひ、意義のある審議を続けていきたいと思っています。

前回はスポーツコミッションの方向性や関連団体の連携などを中心に議論していただきました。今日は前回の議論を踏まえたうえで、具体的な組織の体制や活動のスケジュール等についてこのあと事務局から原案をお示しいたします。昨年からはじめましたこの審議について、

まとめる時期が近づいておりますので、忌憚のないご意見をいただきたいと思ひます。よろしくお願ひ致します。

### ■議題（1）副会長の互選について

会 長：これまでスポーツ推進審議会の副会長をお務めいただいております勝亦紘一委員の辞任に伴い、副会長の選出を行いたいと思ひます。副会長の選出は豊田市スポーツ推進審議会条例第 6 条により、会長、および副会長は委員の互選によって定め、その任期は委員の任期によると規定されています。自薦・他薦は問いませんのでどなたかご発声をお願いしたいと思ひます。

委 員：中京大学の松尾貴光委員にぜひお願いしたいと思ひます。いかがでしょうか。

会 長：ただいま、中京大学の松尾貴光委員への推薦がございましたが、皆様いかがでしょうか。

一 同：異議なし。

会 長：異議なしとのことですので、松尾貴光委員、副会長席にお越しく下さい。また、ひとことご挨拶をお願いいたします。

副会長：よろしくお願ひ致します。冒頭、会長がおっしゃられましたように中京大学では、スポーツ庁の意向を受け、昨年度、株式会社ミズノと提携を結びました。早稲田大学が株式会社アシックスと提携したようにスポーツ界を企業とともに盛り上げていこうということをミッションのひとつとして考えております。豊田市のスポーツ推進審議会においても良い連携ができたらと思ひております。

### ■議題（2）前回の審議会までの振り返り等について

事務局：資料に基づき説明

会 長：前回の審議会までの振り返り等についてまとめていただきましたが、何かご質問、ご意見等ございませんか。

会 長：もし、何かあれば後でお話いただきたいと思ひますが、現在、特に意見がないようですので、次の議題に進みます。

### ■議題（3）豊田市スポーツコミッションの組織体制について

事務局：資料に基づき説明

会 長：非常に具体的な案を提示していただきました。豊田市体育協会内部にスポーツコミッション事業部（仮称）をつくり、事務局の人員配置が資料のようになるのではないかと 2 期に分けて示されています。このアイデアについてどなたからでも結構ですので、ご意見・質問をいただき、時間をかけて議論したいと思ひます。

会 長：まず、私からお話したいと思ひます。5 ページの体育協会内に組織を置くことに関して、メリット・デメリットを示し、もっともふさわしいという評価をしています。デメリットのうち、「公益財団法人であり、収益事業等に一定の制約がある」ということに関して、たとえば、具体的にどのような制約があるのか、体育協会内にスポーツコミッションがおかれると、「このようなことができなくなる」という予想があれば、ご説明いただきたいです。

委 員：体育協会に所属しておりますので、回答させていただきます。体育協会は公益財団法人認定を平成 24 年に取得して活動しております。営利事業をしてはいけないということはありません。営利事業を行うのであれば、黒字にすること、また、その利益を公益事業に使うということが

前提です。収益事業であるスポーツツーリズムに関する取り組みも、問題はないと思われます。

会 長：特に何かができなくなるということはないのでしょうか。

委 員：収益をスポーツ目的以外に使ってはいけないという制約はあります。

会 長：スポーツコミッションであるため、その制約に関しては特に問題ないでしょう。

委 員：スポーツコミッションとして観光に関わる部分も大きいと思いますが、ツーリズムとよたの理事の中にスポーツ分野の人材が抜けているのはどういう意図があるのでしょうか。

事務局：議論をする中で、体育協会、スポーツ分野関係者にも理事になっていただくことを検討しましたが、現在の豊田市観光協会もそうであるように、理事の立場の方だと、方向性の意思決定はできますが、具体的な事業に関する意見交換は難しいのではないかと懸念がありました。そのため、理事としてではなく、4 ページの組織体制図の中に記載している、観光戦略プロジェクトチームとして、体育協会や、スポーツ課、豊田スタジアム等スポーツ分野の方に参加していただき、現場レベルでどのように事業を進めていくのかを検討する形にしました。そのため、スポーツ分野の理事はいない形となりました。

会 長：理事の中にはいらっしゃいませんが、組織イメージにおいて、スポーツコミッション担当がツーリズムとよたのなかに配置されています。先ほどお話にありました、観光戦略プロジェクトチームを担う人材がスポーツコミッション担当であるということでしょうか。

事務局：そうです。6 ページの中にある、プロジェクトチームと似ていますが、観光戦略プロジェクトチームも必要に応じて、必要な分だけ立ち上げる形を想定しています。スポーツコミッション担当として職員を配置しますが、それとはまた別にスポーツコミッション内のプロジェクトチームにも職員が参加することを考えております。

会 長：プロジェクトチームの中にツーリズムとよたの方に入っただき、スポーツコミッション担当は別の方になることもあるということですね。

委 員：プロジェクトチームがたくさんできてしまい、同じような内容の事業がツーリズムとよたにもあり、スポーツコミッションにも存在するということになりかねないのではないのでしょうか。互いの組織で連携ができるようなスキームを考えてもいいのではないかと思います。たとえば、おもてなしをテーマにするならば、ツーリズムとよたと、スポーツコミッションに共通する部分であるため、一体化できるような体制を検討しても良いのではないかと思います。

会 長：別々の組織が同じことをやってもしょうがないので、ひとつのプロジェクトチームを二つの組織が運営する、相乗りしたプロジェクトがあっても良いと思います。

事務局：ふたつの組織で同じようなプロジェクトチームを立ち上げるというイメージは持っていません。例に上がったおもてなしといっても、大変幅広い事業が考えられると思います。我々が考えているおもてなしとして、例えば、開催が予定されている豊田国際体操において、来場者のために豊田市の特産品を売ってもらうという取組を行っていますが、その取組のために、だれが、どのように手配を行い、出店していただくかということや、そのプロジェクトチーム内に、主催者が入りどのように PR を行うかということや、商工会議所が入りお店をどのように選出しようかなどを検討するというのもそれぞれがひとつのテーマとして考えられます。そのような細かな事業内容であってもプロジェクトチームを立ち上げ、業務が完了すれば解散する、というイメージを考えております。

会 長：いままで豊田市のスポーツ課で行っていたことも含めて情報を共有しつつ、豊田市側にもスポーツコミッション担当者を配置するというのも考えているのでしょうか。

事務局：スポーツコミッション担当を配置する予定はあります。

委員：昨年度のスカイホールで開催した20大会において、選手と監督だけで1万2千泊があったとの調査結果が出ました。また、主催者等と調整し、物産品の販売を行い、600万円ほどの売り上げがありました。過去には高齢者の大会等において猿投温泉と連携し、バスを手配するといったおもてなし事業に取り組んでおります。そのような事業をスポーツコミッションが担っていくのではないかと考えています。宿泊に関しては、現時点では、主催者任せのため、特に手配や紹介を行うことはしておりません。

会長：そのような仕組みをスポーツコミッションのプロジェクトでできれば、ツーリズムとよたも含めたチームとなり、大会との連携から、おもてなし事業や宿泊の手配まで一気通貫のプロジェクトになると思います。

委員：資料だと、ホテルの紹介等はツーリズムとよたを通して行うことになっていますね。

会長：プロジェクトチーム内にツーリズムとよたの方も入ってくるため、ホテルの紹介等に関して、意見することも可能です。

事務局：現時点では、プロジェクトチーム内に、ホテル旅館組合に入ってもらうのではなく、ツーリズムとよたの方に入ってもらうことを検討しております。大会の情報提供をプロジェクトチームを通して行い、その後、必要に応じてホテル旅館組合の方に入ってもらう場合もあるかもしれません。

会長：まずはツーリズムとよたの方に入ってもらい、調整をおこなうということですね。

会長：大会参加者の宿泊の手配を主催者の方がどのように行っているのかはわからない状況でしょうか。

委員：体育協会としては関知しておりません。大きな大会になればなるほど、スポンサーの関係もあり、旅行会社を中心となって宿泊手配を行います。大会に協賛している旅行会社の財源の一つであるため、そこまで手は出せません。

会長：このような状況にどのように手を打ったらよいでしょうか。

事務局：現時点では大会参加者は観光をせず、豊田市で宿泊のみしている場合が多いですが、プロジェクトチーム内で情報共有することにより、豊田市にある、9つの温泉源を紹介する等の取組みが考えられます。インターハイなどでは難しいかもしれないが、時間にゆとりのあるマスターズの大会などでは、選手の空き時間を利用してもらい、豊田市の観光を楽しんでもらうような提案をツーリズムとよたの方からからしてもらってはどうか。いままで宿泊だけをしていた参加者が、豊田市内各地に足を延ばし、地域の活性化につながるものがスポーツコミッションの大きなメリットであると考えています。

事務局：例えば、観光戦略プロジェクトチームが観光商品を作り、ツーリズムとよたのスポーツコミッションプロジェクトチーム担当がアフターコンベンションのように紹介するというイメージが良いと思います。

委員：前回の審議会、欠席させていただいたため、すでに議論されたかもしれませんが、6ページのスポーツコミッション組織のあり方について意見があります。新たな組織として立ち上げるのであれば、ラグビーワールドカップまで時間もないので、スポーツコミッションが予算、権限、人などを集め、決めたことを実行できるように実体を持たなければ意味がないと思います。豊田市、体育協会、ツーリズムとよたの間を取り持つ役割をスポーツコミッションが担っていると思われませんが、それぞれの利害が対立したときに様々な決定に時間がかかるようになるの

ではないかと思えます。スポーツコミッションにもっと強い権限を持たせることが必要ではないでしょうか。例えば、豊田市、体育協会、観光協会の上に位置する組織にできるのであれば、そこで決められたことが確実に実行されるようになると思えます。

会 長：スポーツコミッションが決定した事項について豊田市体育協会理事会が否決するといった事態がありうるのではないかとということではないかと思えます。

委 員：例えば、豊田市のスポーツ課、スポーツコミッションがやろうとしていることが同じであればよいが、意見の違いがあることも考えられるため、その際に調整を行うことに時間がかかるのではないのでしょうか。

委 員：現在のおもてなし事業を行う上では、組織体制に問題はないと思えます。問題なのは大会が大きくなればなるほど、主催者の権限が強くなるため、調整が必要になることだと思います。例えば、ラグビーワールドカップでスポーツコミッションがどこまで手を出せるのかということなど、大規模な大会でやるのが制限される中、何ができるのか確認することが重要です。

委 員：その調整を行う際に、スポーツコミッションに権限があれば、スムーズに話が進むのではないかと思えます。

委 員：スポンサーとの関わりもあるため、主催者の権限はどうしても強くなると思えます。

会 長：大きな大会でスポーツコミッションが動こうとしても動けないということが考えられます。例えば、主催者の手伝いや、スポンサーの許す範囲での活動はできますが、他にスポンサーを募って動くことはできないと思えます。

委 員：主催者のための窓口としてスポーツコミッションが活動するというのでしょうか。

会 長：主催者と協働し、できる範囲内で豊田市のスポーツツーリズム、スポーツの振興をする事業を創り出すということになると思えます。一方で、小さな大会であれば、スポーツコミッションがグリップを握り、事業を進めることができることがあるかもしれません。

委 員：大規模な大会の際、現状考えているスポーツツーリズム（振興）の役割を既存の組織が担うことはできないのでしょうか。

会 長：既存の組織の場合、お手伝い程度はできるかもしれません。また、スポンサー料を払えば可能だと思います。

事務局：グランパスを例に挙げると、現在、調整の結果、各種バナーやポスターを作る際に WE LOVE とよたのロゴとグランパスのロゴを一緒に使うことができる状況にあります。それが、他の国際大会になると、スポンサーの意向でサッカーに関連するものは一切使えない状況でした。大会の規模が大きくなると、スポンサー等の意向でかなり制限をされるため、その調整役をスポーツコミッションで担いたいと思っています。

委 員：それはスポーツ課ではできないのでしょうか。

事務局：状況によってはスポーツ課が話をしなければならぬケースが多々ありますので、その時のために、スポーツコミッション担当者がスポーツ課に配置されます。

委 員：先ほどの意見に近い考えがあり、せつかくスポーツコミッションを作るのであれば、大きな利益を得ることができる事業を起こすべきだと思います。そのためには、既存の制約が取り払われるような仕組みを作らなければ、利益は生まれません。利益が生まれなければ、組織として長続きしないのではないかと思えます。スポンサーによる制限があることはわかっていますが、調整だけであれば、新たな組織を立ち上げる必要はないのではないのでしょうか。必要な調整を省略できるような権限をスポーツコミッションが持つことができ

ばとよいと感じています。

事務局：スポーツコミッションについて議論する中で、利益の追求についても検討しています。ただ、このスポーツコミッションで儲けてほしいのは、豊田市内にある店舗や旅館であり、スポーツコミッション事務局自体に利益をもたらそうという考えを今はもっておりません。お金儲けだけではなく、たとえば、グランパスの選手が市民と触れ合ってもらえるような環境づくりでもよいと思います。豊田市民の財産になることを踏まえ、スポーツコミッションとして活動したいという想いがあります。

会 長：大きな大会はほとんどビジネススキームが出来上がっているため、そこに入り込み、利益確保することは非常に難しい状況です。ただ、豊田市体育協会と一緒に作り上げることでできるレベルのスポーツイベントやスポーツ活動においてはスポーツコミッションがかなり機能する可能性があると思います。

委 員：現在の競技団体が作り上げたスポンサーのいない全国大会もあるため、そのような大会において、スポーツコミッションが活動することはできると思います。

会 長：共催になれば可能ですね。

委 員：すでに共催している大会もあり、利益を生むような事業であれば、ツーリズムとよたに引き継げば良いのではないかと思います。

会 長：ほかに意見はありますか。

委 員：スポーツコミッションと体育協会の役割は何が違うのかわかりません。組織を立ち上げることにより、大きく何が変わるのか教えていただきたいです。

委 員：現在行っているおもてなし事業としては物販が主で、先ほどお話がありました、ツアーを組むということはしていないため、そのような事業であれば発展していくのではないかと思います。

事務局：宿泊に最もお金が使われると思いますので、宿泊に関する事業を行うことが最も大きな違いになると思います。大会や観光等をバックにすることで、豊田市に来てよかった、今度は家族で訪れようと、広がりができれば良いと思っています。

会 長：現在、大会に関するツアーは主催者任せになっていますね。

事務局：大半はそのようになっています。大会によってはひとつの旅行代理店がすべてを担っている状況で、大会ごとに旅行代理店と連携し、旅行代理店の利益を大会に運営費としてフィードバックすることが多々あります。そのような関係性のない大会に関してはスポーツコミッションがどんどんアプローチする形をとっていきたいと思っており、現状とは大きく変わっていくのではないかと期待しています。

委 員：この資料の中でそのようなお話は分かりません。また、スポーツコミッションに権限があるか、ないかでかなり変わってくると思います。また、何か問題が発生した際に、誰が責任を取るのが曖昧であると思いました。また、予算をどれだけ確保できるのかによって変わってくるため、活動の方向性も変わってくると思います。そのあたりが明らかにならなければ、次の議論ができないのではないかと思います。

会 長：予算のイメージはどのようになっていますか。

事務局：第Ⅰ期中に想定される予算はあまりありません。考えられる必要経費としては、このスポーツコミッションを立ち上げたという宣伝費や、現在、体育協会が負担している、おもてなし事業の出店料程度です。出店料はこのまま体育協会に負担していただくのか、スポーツコミッションの予算の中で支出するのか、検討が必要です。また、大規模な大会の招致活動は2020年を



ターニングポイントとし、以降、かなり大きな予算が動く可能性があります。予算がないと招致できないという話もあるかと思いますが、その際にはスポーツコミッション連絡協議会に提案を諮っていきたいと考えています。

委員：スポーツコミッションをじわじわ浸透させていくイメージでいるのか、それとも立ち上げ当初に大々的に宣伝するイメージでいるのでしょうか。いままでのお話ですと、じわじわ浸透させていくイメージであるのかなと思いましたが、いかがでしょうか。

事務局：じわじわ浸透させていくイメージで考えています。

委員：2019年のラグビーワールドカップを見据えると、時間も少ないため、本当にそれでよいのか検討していただきたいと思います。

会長：体育協会内にスポーツコミッションを立ち上げると、連絡協議会があるが故にネットワークは変わるだろうなと思います。これから体育協会内だけで議論するのではなく、連絡協議会で議論をすると、新たな知見が生まれるのではないかという印象があります。

事務局：2019年ラグビーワールドカップにおいて、スポーツコミッションがどこで何ができるのかということがわからない状況です。あくまで、全体を運営するのは組織委員会であり、スポーツコミッションがどこまで大会に携わることができるのかまだわかりません。

会長：2002年のFIFAワールドカップと同様に、組織委員会本部からベニューオーガナイザーが派遣され、その言う通りに動かなければならないと思います。許可の範囲外で動けば、アンブッシュマーケティングであると、止められる可能性があります。新たな大会を作ることや、規則の少ない大会に対してアプローチするという手はあると思います。

事務局：豊田市に泊まっていただき、観光を楽しんでいただくようなパックスツアーの企画に取り組んでいきたいですが、売り方によってアンブッシュマーケティングと判断されたらその場で中止ということになります。国際まちづくり推進課が組織委員会に関わる業務を担っているので、連携をとりながら、どこまで活動の許可がなされるのか判断したいと思います。ラグビーワールドカップに関わらず、パックスツアーで準備できることは今からしていかなければならないと思います。

会長：規則の厳しい大会については高度なスポーツマーケティングの知識がないと注意を受ける可能性はありますが、トヨタがオリンピックのスポンサーであるため、トヨタの工場見学を開催する、オリンピックを世界のスポーツの祭典と言い換えたうえで、豊田市のイベントを行うなどすることは可能であると思います。ほかに意見はありますか。

委員：3ページのツーリズムとよたの運営スキームにおいて豊田市からの補助金や事業者から徴収する手数料の収益で事業を行うとのことですが、いままで体育協会が営利事業をする上で、どのようなお金の流れがあったのか教えていただきたいです。

委員：スカイホールにおいての話ですが、体育協会が行うおもてなし事業として豊田市の物産品等を販売する出店を行っています。出店料として、事業者から売上げの5%を頂戴し、目的外使用料として市に体育協会が支払っています。収支についてはほぼ差し引きゼロで、なかには赤字のイベントもあります。

委員：体育協会は窓口のような役割で、主催者側から依頼があって出店の手配をするといった流れでしょうか。

委員：はい。あくまで主催者の許可をとったうえで出店の手配をしています。

会長：体育協会主催事業を作っていかないと、常に他の組織のイベントコーディネートをやる組

織になってしまいます。

事務局：売り上げの5%をいただいておりますが、人件費を含めて計算すると、黒字の出店事業者はありません。商工会議所からの紹介で、店舗にご協力いただき、豊田市の特産品を売ってほしいとお願いしたうえでお越しいただいております。

委員：今後、スポーツコミッション事業を行う上で、ツーリズムとよたとの連携や、スポーツツーリズムの振興により集客を行い、出店事業者にも利益を生むような形を目指すのでしょうか。

事務局：出店事業者の方によくお話をしますが、物を売るのではなく、名前を売って、商品を覚えてもらうことを目的とし、通販等での販売を促します。イベントでの出店では儲かりません。

会長：広告宣伝用のブースを出すといったイメージですね。

委員：大会を開催する際に、来場者は何を求めているのか、わかっていない部分もあり、私たちが想定していない部分に興味を持たれることもあると思います。行政でできる部分とできない部分があるとは思いますが、その情報を事前に把握し、その役割をその組織が担うことが大切です。例として、国際試合等における救急車の手配があります。過去にある市が救急車を手配しなかったために、一時期、国際試合を行わないことがありました。豊田市では「国際試合の際に救急車の手配を協力します」ということをアピールすることが重要です。公共交通機関においては終電等の問題もあります。サッカーではテレビ局との調整のうえでキックオフの時間を20時に近づけたいというニーズがありますが、終電の時間遅らせることで、20時キックオフが可能になる場合もあります。鉄道会社と調整をし、終電をその日だけ遅らせるようにすることが可能なのでしょうか。

このような対応による、大会に来場しやすい環境づくりをまとめて、実施・提案する機能をスポーツコミッションが持つことができればありがたいです。また、全国で行われているスポーツコミッションに関する様々な取組みの情報を集め、豊田市独自の取組みを考えるなど、豊田市らしさをもつ特色ある組織となればよいと思います。

会長：フィルムコミッションであれば、行政との折衝や、鉄道会社と終電の調整をワントップ行う場合がありますが、スポーツコミッションにおいてそのような総合窓口的役割を担うことができるのでしょうか。

事務局：スポーツコミッションの知識がどの程度のものかにもよると思います。例えば、フィルムコミッションであれば、「撮影を行いたいのので、〇時から〇時まで橋を通行止めにした」ということを警察と協議することは可能だと思います。ただ、サッカーを例に挙げると、「救急車が〇台必要である」ということの理由の説明がスポーツコミッションとして必要になると想定されるため、その際は知識のある方に同席をお願いしたいと思います。

会長：理由を聞かれた際に「わかりません」とは言えませんね。

事務局：通行止め等、はっきり根拠がわかっているものであれば対応できます。ただ、迂回路の計画などは主催者に作ってもらう必要があり、関係部署との調整の際には、主催者に同席していただくことになると思います。

会長：スポーツコミッションによってその調整がスムーズになればよいと思います。

委員：イベントを主催する業務に携わっていたため、そのあたりの状況を把握しているつもりです。先ほどお話しがあったように、終電の延長や増便等をどうするのかといった調整は開催施設側ではなく、すべて主催者側で対応しています。主催者の立場で考えれば、このスポーツコミッションという組織が立ち上がり、さまざまな面でサポートしていただけるということはとても

重要だと思います。警察との協議においても、もちろん、主催者でなければわからない内容もたくさんあるため、開催に向けて一緒に動き、スポーツコミッションとして、経験値を獲得することは必要であると思います。

委員：そのようなワントップの窓口を作るのであれば、市の組織として作ればいいのではないのでしょうか。

事務局：話を聞くだけであれば市でできるかもしれないが、実行に移す場合、決済ルートの検討など調整が必要なため、外部組織が担当したほうが、よりスピーディーに動くことができます。

事務局：主催者のサポートだけではなく、観光部門とともにサービスを開発するなど、周辺の受け入れ環境の整備をスポーツコミッションでやっていこうという構想になっているため、フットワークのよい組織が必要であると思います。

事務局：先ほどお話しした通行止めの話は、旭大橋でNHKがドラマの撮影をしたいという依頼が来た時の話です。お弁当の発注から、足助警察との交通規制の調整など市の職員で担当しましたが、そんなに難しいことではなかったイメージがあります。また、他の自治体の協力を行ったこともありますが、その際は、フィルムコミッションと共同で2か月間、80人でホテルを貸し切りたいという依頼に対応し、金額交渉等を行いました。ただ、そのような交渉も、行政が行うのではなく、スポーツに関連することであれば、スポーツコミッションが担うことができればよいと思います。

委員：大規模なスポーツイベントの下支えや、総合的な窓口などがスポーツコミッションの役割として考えられますが、スポーツコミッションが主催者としてイベントを開催する場合、プロジェクトチームで企画されるのでしょうか。

会長：次の議題に関わる質問でありますので、事務局から豊田市スポーツコミッションの活動内容についてご説明いただきたいと思います。

### ■議題（3）豊田市スポーツコミッションの活動内容について

事務局：資料に基づき説明

会長：先ほどの質問について、引き続き伺いたいと思います。資料のスケジュールによれば、イベントの企画・開催は2018年からとなっています。

委員：プロジェクトチームを立ち上げ、新しい大会等のイベントを行うということですが、スポーツコミッション事業部で企画を行うのか、またはスポーツコミッション以外の団体からの提案を受けるのか、どちらになるのでしょうか。

事務局：両方になると思います。むしろそうなるべきで、双方向的に、企画が持ち込まれるような体制、また、自分たちでこんなことがしたいということを企画できるような体制ができればよいと思っております。

委員：マーケティングを担う人材もスポーツコミッションの中に配置するのでしょうか。

事務局：運営連絡会を定期的に行い、メンバーが情報を提供することになると思います。また、情報発信についてですが、イベント・大会の企画が決まった際に、PRすることも大切だと思いますので、恒常的に広報担当を配置することが必要だと考え、6ページの事務局の枠の中に記載しております。

会長：自主企画、持ち込み企画、両方に対応できる体制だということですね。先ほどの活動の方向性、またスケジュールに関する案を出していただきましたが、こちらについても議論していきたい

と思います。

委員：大きな大会になればなるほど制約がたくさんあるという話がありましたが、たとえば、スカイホールで大きな大会があった場合、スカイホールで何かをやろうとすると、制限がかかるということでしょうか。

会長：会場内だけではなく、会場外でも大会の名前やシンボルを使うことに制限がかかる場合があります。

事務局：会場から500m以内は大会に関連するものを使用してはいけない場合など、大会によって異なります。例えば、ラグビーワールドカップの場合は、駅から会場まで制限がかかります。

委員：大会の会場で来場者が豊田市の特産品などに触れる機会があることは大切だと思いますが、会場周辺でできないのであれば、会場から離れた場所でやってはどうかと思います。ラグビーワールドカップの際に駅から制限がかかっているのであれば、その制限の外側で、もともと豊田市が持っている観光資産をPRしたらよいのではないのでしょうか。大会の開催時間にあわせて電車で来訪し、終わればそのまま帰ってもらうのではなく、豊田市にまた来たい、観光したいと思ってもらうために、豊田市の観光マップを手にとってもらえるようしたり、インターネットを通じて情報提供をイベントの際に来訪する人に対して行い、大会前後に観光を楽しんでもらうことが大切だと思います。スポーツコミッションは大きな大会と連動して動くことが多いかもしれませんが、市が考えているような、豊田市全体が豊かになるような組織につながるアイデアも必要です。プロジェクトチームに関して、スポーツコミッション発信での企画、持ち込みの企画、両方あればよいということは、本当にその通りだと思います。たとえば、まちなかのラーメン屋が集まって、豊田市のラーメンマップを作りたいというようなことも良いのではないのでしょうか。常に活動している人たちの横のつながりを作る組織としてスポーツコミッションがあるのならば、様々な取り組みをしたいと思っている人、若い経営者など、プロジェクトチームを通じて多くのことを企画できるのではないかと思います。

委員：制限は主に宿泊や物販に関してかかります。お話いただいた意見については主催者としても、「おもてなしとしてどんどんやってください」という姿勢にあります。スポーツコミッションがそのような企画を開発していくことが組織の役割であると思います。

事務局：観光ツアーというような大きな話ではなく、常日頃の市民の生活動線から少し外れて足を延ばせば、こんなに良い場所があると紹介する、というような話だと思います。非常に参考になるお話で、このスポーツ推進審議会では皆さんの意見を聞きながら、そのような企画をやっていくこともスポーツコミッションの仕事であると思いました。

事務局：大きな大会になればなるほど、制限があるということに関してですが、大会主催者は開催地に対してどうこうということよりも、まず、無事に大会を成功させたいという考えがあります。受け入れる側の我々からすれば、知名度が高く、市への経済効果の大きい大会であれば、それを活かしたいという考えがあります。スポーツコミッションは、その大会を活かしたいという考えをどう実現していくかが組織としての一つの大きな目的でもあります。制約がある中で、何をさせてもらえるのかということを探していくということがスポーツコミッションの中の作業のひとつでもあります。大会によっては、多くのことができることもあれば、少しのことしかできない、ということも考えられます。

委員：市民全体が、そのようなことを見聞きして、様々な取組について考えるようになれば、豊田市に行ってみたいという人が増えるのではないかと思います。例えば、少年野球の小さな大会で

あっても、近隣の市町から来た人に対して、温泉の紹介やトヨタの工場見学等、観光の提案ができるようにスポーツコミッションが機能すればよいと思います。あれもだめ、これもだめ、という話を聞いているとだんだん前向きに考えられなくなります。

事務局：以前、グランパスの試合の際に、豊田市においしいラーメン屋が増えてきていたため、「イケ麺決定戦」という企画をやりたいとの話がありました。企画倒れにはなりましたが、そのような企画をもっと考え、スポーツと観光の融合により、地域の活性化を図ることがスポーツコミッションの役割の一つであるかなと思います。

委員：市の外部組織として立ち上げることにより、より柔軟に企画を考えることができると思います。

委員：ある J2 のクラブでの試合の際、駅からスタジアムまで距離があるため、バスを手配し、送迎の際に駅近くで提携を行っている居酒屋の前で乗客に乗降してもらうという取組みを行っている例があります。Jリーグ主催の試合ではありますが、そのような取組みを行うことが可能です。豊田市を訪れる場合は、名古屋で乗り換える場合が多いため、名古屋からバスを手配できれば、同様に市内で飲食をしてもらえるようになるのではないかと思います。

会長：そのようなアイデアを出し合うようなスポーツコミッションでなければならないと思います。ほかに意見はありますか。

委員：全市的にスポーツを活性化させたい、あるいは経済波及効果をもたらしたいということは理解できますが、地域住民のスポーツ振興も大きなスポーツコミッションの柱の一つであると思っています。議論をお聞きしていると、大規模なイベントの豊田スタジアムやスカイホールでの開催が話題の中心となっていますが、中山間地域をどのように巻き込んでいくのかを考えることも必要です。市内から中山間地域への人の動きは車が中心になるため、公共交通機関利用者にとっては動ける地域が限定されるのではないかと思います。また、短期的に行うこと、中長期的に行うことの色分けして活動してほしいと思います。特に、収益ばかりに目を向けていると、豊田市のスポーツ全体を見る意識が薄らいでしまうのではないかと思います。また、第 8 次豊田市総合計画の中に、スポーツに関する事項の記載がほとんどありませんが、予算の獲得等も必要ではないでしょうか。

会長：スポーツ関連組織だけで話し合いをするのではなく、全市的な総合計画とすり合わせる必要ですね。

委員：中山間地域の交流人口拡大のための道路整備や、豊田スタジアムの駐車場の拡張などに関する決定権は市が持っているのでしょうか。

事務局：道路は国県を含む道路管理者や警察が管轄している場合が多いです。スタジアムの駐車場に関しては市で対応しています。

委員：先ほどから、決定権に関する議論がなされていますが、イベントを開催するにあたって、道路整備が必要になった場合、豊田市のスポーツコミッション担当の方が窓口として対応するというのでしょうか。

会長：その調整のためにスポーツコミッション担当の方が汗をかく必要はあります。初めからできない、という方が担当になっては困ると思います。

事務局：スポーツコミッションの中で考えている中山間地域の交通手段に関する地域の窓口となりうるのは旅館だと思っています。中山間地域の旅館は、ほとんどがバスを所有しているため、自分の旅館のためだけではなく、その地域一帯のためという考えを持っていただければ、バスをコンスタントに走らせることができるのではないのでしょうか。まちなかまでバスを走らせ、観光

をしていただき、旅館に泊まってもらうという一連の流れをツーリズムとよたで考えていただければと思います。

委員：ラグビーワールドカップをはじめ、大規模イベント開催の際には、当然、交通渋滞等が増えることが予想され、スタジアムにも駐車場が少ないため、公共交通を使用してもらうことが重要です。そのためには、国道 248 号線においてバスを走らせるための議論等も並行して行わなければ間に合わないのではないかと思います。そのような計画を本提案のなかに盛り込むべきではないでしょうか。

事務局：ラグビーワールドカップの際のバス手配はスポーツコミッションではなく、ローカル組織委員会のほうで対応すると思います。

事務局：観客の輸送に関しては、開催地のローカル組織委員会で対応するということになっています。現実的にどのように交通処理をするかはこれまでの経験をもとに決まってくるかと思いますが、サッカー国際試合等、過去の大規模イベント開催時と大幅には変わらないだろうと思っています。道路を拡張する、車線を変更するといったことは現在、想定しておりません。試合の組み合わせ抽選会が来年ありますので、その抽選結果に応じ、現状のハードの中で何を行うか検討するというのが基本的な考え方です。

事務局：国道、県道、市道があり、それぞれ担当する組織が変わってきます。市が行うことではないため、必ずできますとは言えませんが、県による高橋の拡幅や、国道 301 号線の整備、国による北バイパスの工事の一部区間の早期完了等、渋滞緩和を図っています。一方で、観戦客は公共交通機関も利用するため、想定ではありますが、3~4 万人ほとんどの観戦客が鉄道を利用した場合、駅舎の混雑は予想されますが、輸送自体に大きな影響はないと思われます。今後の課題は、公共交通機関の利用をどれだけ快適にできるかということにあります。

会長：そろそろ審議会終了の時間ですが、何か意見のある方はいらっしゃいますか。

委員：2019 年、2020 年を契機としたスポーツコミッションの活動が、今後の豊田市のスポーツ振興につながると思います。いままで体育協会が行ってきた取組みとスポーツ課が行っていた取組みを大きく転換し、戦略的に活動するような組織になることを期待したいと思います。